

「神の義の現れ」

自己紹介

私の名前は藤野純一です。メノナイトブレザレン教団の枚方の教会で35年間牧師をして、退職後は、枚方に住んで、名古屋の北にある小牧市の、同じ教団の教会で4年間、非常勤で牧師をしてきました。またO I Cでメッセージをするように招いてくださってありがとうございます。これで3回目になります。

では、お祈りします。

父なる神様、O I Cでメッセージをさせていただけることを感謝します。あなたご自身のおことばから語ってくださって、私たちに教えてください、導いてください。イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。

聖書は、神が義なる方だと教えています。もちろん、神の義、それは完全な義であるはずですが、そして、それが、私たちに人間に与えられる、現れていく、と約束しています。どのようにして、そんなすごいことが可能になるのでしょうか？ そして、神の義が現れると、私たちはどのように変わるのでしょうか？

ローマ 3:20-22 を見ていきましょう。[聖書協会共同訳]

3:20 なぜなら、律法を行うことによって、誰一人神の前に義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。3:21 しかし今や、律法を離れて、しかも律法と預言者によって証しされて、神の義が現されました。3:22 神の義は、イエス・キリストの真実によって、信じる者すべてに現されたのです。そこには何の差別もありません。

この箇所を見ていきましょう。

1. 人は、律法の行いでは義とされない 3:20

ローマ 3:20 [聖書協会共同訳]

3:20 なぜなら、律法を行うことによって、誰一人神の前に義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。

「律法」とは、神が定めておられて、そのように生きるようにと、人間に示しておられる正しい基準です。「それを私は行いました。だから私は正しい」と言える人はだれもいません。また、律法という基準があると、私たちが罪人に過ぎないことがよく分かります。

では、その律法の中心は何でしょうか？

イエス様は、その質問に対して答えておられます。

マタイ 22:36-40 [新改訳 2017]

22:36 「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」

22:37 イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

22:38 これが、重要な第一の戒めです。

22:39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それを同じように重要です。

22:40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

これが律法を中心ですね。では、その第一の戒めの最初の部分だけを取り上げて。神様を、心のすべてを尽くして、愛せますか？ 心の80%くらいででしたら、努力すれば、愛せるでしょうか。でも、戒めは、「心を尽くして愛しなさい」ですから、まだ20%分は尽くせてませんね。さらに頑張らって、心の90%で神様を愛したとします。でもまだ10%分、神様を愛せてません。さらに、努力して、95%で神様を愛するとしても、でもまだ5%は、愛せてません。戒めは、心を尽くして神を愛しなさいです。そのうちに神様を愛そうとすることは、とても疲れると思って、「神様を愛そうとすることは疲れる。もう神様を愛したくない」という思いになってしまうのではないのでしょうか？ すると、結局、「私は、神様の戒めが守れない。私は罪人だ。私はダメだ」ということになってしまいます。

ローマ 3:20b

3:20b 律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。

律法の役割は、神様が、私たち人間に求めておられる正しい基準を示すことと、人間が、どんなに努力しても、そこに到達できないことを示すことです。

このマタイ22章の箇所、「愛しなさい」ということばは、英語でも、日本語でも当然「命令形」です。でも、原典である、ギリシャ語の新約聖書では、ただ単純に「未来時制」が使われています。ギリシャ語の「未来時制」は、命令の意味で使われることもありますから、この箇所が「命令形」で訳されていることは、もちろん正しいです。でも、イエス様は、「あなたは絶対に、心を尽くして神様を愛さなければなりません。それはあなたの責任です！！」と言われたのではなく、イエス様は「あなたは心を尽くして（心全体で）、いのちを尽くし、知性を尽くして神様を愛するようになるのですよ」というニューアンスで、語っておられます。どのようにして、私たちが、神様を心全体、いのち全体、知性全体で愛するようになれるのでしょうか？

神様が、私たちの心を聖霊で満たしてくださったら、私たちの心、いのち、知性全体にあふれる愛で、神様を愛することが、全く自然にできるようになります。このように、神は、人間がこの戒めを守ることを可能にすることがおできになります。

2. 神の義が、旧約聖書で示された 3:21

ローマ 3:21 [聖書協会共同訳]

3:21 しかし今や、律法を離れて、しかも律法と預言者によって証しされて、神の義が現されました。

「しかし今や」 イエスが来られて、十字架で罪の贖いを成し遂げられてからはという意味ですね。「律法を離れて」、つまり、私たちが律法を守るからというのではなく、「律法と預言者によって証しされて」ヘブル語の旧約聖書は、3つの部分から成っています。第1区分は「律法」、第2区分は「預言者」ですが、第3区分には、特に名前がついていません。ですから、旧約聖書全体を表すときに、第1区分と第2区分の名前だけを挙げて「律法と預言者」という言い方をします。ですから、この箇所は、「旧約聖書全体によって証しされて、神の義が現されました。」ですね。

「神の義」は、神様の義ですから、完全に正しい義ですね。つまり、100%正しい義です。それが「現された」ということです。どういう意味でしょうか？
どのように現されたのでしょうか？

それが、次の22節で説明されています。

3. 神の義が現された。3:22

22節の内容に入る前に、英語や日本語の聖書で、翻訳が適切かどうかを、調べてみましょう。

3-1. 最近の聖書の訳

ローマ 3:22 [聖書協会共同訳]

3:22 神の義は、イエス・キリストの真実によって、信じる者すべてに現されたのです。そこには、何の差別もありません。

きょうは、英語の聖書としては、New English Translation (2019) を使いました。(日本語では、ローマ 3章 20-23節の箇所は、[聖書協会共同訳]を)
それには、理由があります。

NET では、2019年の改訂で、翻訳が、A から B に変わりました。

- A. 「神の義は、イエス・キリストを信じることによって、信じる者すべてに現されたのです。」
- B. 「神の義は、イエス・キリストの真実によって、信じる者すべてに現されたのです。」

この、A から B への変化は、ごく最近に起こったことです。

NIV では、2011年の改訂版では、本文では以前からも A を採用していますが、脚注で B を別訳と紹介しています。
英語では、他の翻訳で、ごく最近に改訂版が出た、というものを知りません。

日本語訳では、2017年に改訂された[新改訳 2017]では、本文で A を採用していますが、脚注で B を別訳として紹介しています。
そして、2018年に改訂された[聖書協会共同訳]は、[新共同訳]からの改訂ですが、本文で B を採用しました。

A と B で、どちらの訳が、正しいのでしょうか？

結論として、最近の流れからも分かりますが、A よりも、B の方が、適切な訳とされてきています。

では、A と B で、どんな違いがあるのでしょうか？

A. 「神の義は、イエス・キリストを信じることによって、信じる者すべてに現されたのです。」
私たちが、キリストを信じることによって、つまり、私たちがキリストをしっかりと信じることによって、信じる者に神の義が現されるというニュアンスになります。信じる私たちの信仰が強調されます。

B. 「神の義は、イエス・キリストの真実によって、信じる者すべてに現されたのです。」
イエス・キリストは、すべての行動やご人格においても真実な方ですから、そのイエスの真実に、私たちが信頼することで、私たちが神の義をいただくことができます、です。つまり、私たちの信仰

の量や、強さよりも、キリストが真実であられることに重点があります。

3-2. イエスが求められる信仰

イエスは、私たちにどのような信仰を求めておられるのでしょうか？

弟子たちが、悪霊を追い出すことができなかつたときに、弟子たちは、イエスに質問しています。

マタイ 17:19b-20 [新改訳 2017]

17:19b 「なぜ私たちは悪霊を追い出せなかつたのですか。」

たぶん、弟子たちは、自分の信仰を振り絞って、「悪霊よ。出て行け！！！」と叫んだのでしょうか。でも、悪霊は出て行きませんでした。

17:20 イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移ります。あなたがたにできないことは何もありません。」

イエスが言われた意味は、こうでしょう。「あなたがたは自分の信仰に信頼しています。それは意味がありません。ただ、私に信頼しなさい。私に信頼する、からし種ほどの信仰があればいいんです。私は真実です。私は、すべきことはします。」

私たちは、神の義がどのように現されたかを求めている、その途中です。

3-3. 神の義とは？

私は、クリスチャンになってすぐの頃に、語呂合わせで、

Justified は、just as if I had never sinned の短縮形だと聞きました。

つまり、クリスチャンが「義とされる」ということは、「罪を犯したことがないかのように、神が私たちを見てくださるとのことだ」と聞きました。

そうしますと、クリスチャンはイエスの十字架によって義とされているわけですから、神は、罪を犯したことがない者として見てくださいます。滅びるしかない罪人を点数で、「-100」としますと、罪人がイエスを信じて義とされると、罪を犯していないかのように神が見てくださるわけですから、「0」になるはずです。

つまり、義とされるということは、

-100 → 0
罪人 義とされ、罪を赦された

-100であった者が、神の恵みによって、罪をすべて赦されて、0となったのはすごい奇跡です。でも、神の義が現されるのは、それ以上のことです。

ローマ 3:22a [聖書協会共同訳]

3:22a 神の義は、イエス・キリストの真実によって、信じる者すべてに現されたのです。

イエスは、完全に真実なお方です。神の義がイエス・キリストの真実を通して現されるということ

は、罪が赦される以上のことです。

神は、100%正しい方です。その神の義を点数で表すと、+100となるはずで、最高の点数です。キリストの真実によって、信じる者すべてに現された神の義は、神と同じ義を私たちに与えることとなります。ですから、

-100 → 0 → +100
罪人 罪が赦され、義とされた、 神の義が現された

神は、ご自身以下のものを、私たちに現そうとしておられません。

3-4. 神の義が弟子たちに

この神の義が、キリストの十字架の後、弟子たちに、どのように現されたのでしょうか。

十字架の前の晩には、弟子たちは、「私たちの中で一番偉いのはだれか」とか言って、自分の信仰や働きを誇っていました。

十字架、キリストの復活、昇天（天に上がられて）、そしてペンテコステで聖霊を受けました。すると、そこに、愛の共同体ができていきました。神が、ご自身の愛を、ご自身の人格を現されました。

使徒 2:46-47 [新改訳 2017]

2:46 そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと孫頃をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。

ペテロとヨハネが、生まれつき足の不自由な人を立たせて、歩けるようにした時も、ペテロは人々に言いました。

使徒 3:12c [新改訳 2017]

3:12c どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。

弟子たちは、もう自分の信仰や力に頼ってはいませんでした。

使徒 3:16 [新改訳 2017]

3:16 このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおりに完全なからだにしたのです。

彼らは、イエスを単純に信頼する人たちになっていました。そして、神がしようとされることを何でもなされるようにと、神に拠り頼んでいました。そして、イエスがどのようなお方であるかに単純に信頼していく信仰が周りに広がっていきました。

このようにして、旧約聖書で予告されていた神の義が、現れていきました。

マタイ 22:37-39a [新改訳 2017]

22:37 イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

22:39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』

イエスが語られたニューアンスは、

「あなたは、心全体で、いのち全体で、知性全体で、あなたの神、主を愛するようになるのですよ。」

「あなたはあなたの隣人をあなた自身のように愛するようになるのですよ。」

彼らは聖霊を受けて、父と御子のご人格が現されていきました。

3-5. 神の義が私たちの日常に現された

神の義が、毎日、私たちに現されるはずです。

エペソ 2:10 [新改訳 2017]

2:10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

イエス・キリストを信じてからは、私たちが、神の作品です。神は、世界のすべてのものを造られましたが、私たちが、毎日、また一瞬一瞬ごとにすべき良いわざをも、造り、備えてくださいます。そこで、私たちにできる最善のことは、それをさせてくださる神に信頼することです。神は、ご自身が備えられた、一つ一つの良いわざが、私たちにできるように、導いてくださいます。神は、それをしてくださいます。私たちに求められているのは、その神を信頼することです。

今回は、ひと月ほど前に、メッセージのご依頼をいただきました。そのときに、それが神の導きであること、また、きょうの、この聖書箇所から語らせていただくようにと示されていました。しかし、私にとって、英語でのメッセージの準備は、大仕事です。まず日本語で書いていきます。それから英語に訳します。日頃は、ラフなメッセージ原稿で説教をしていますが、O I Cでは、完全な原稿が、英語と日本語で必要です。ですから、普段の数倍の時間がかかります。数週間前から、準備を始めました。しかし、普段よりも多くの時間、みことばに集中しますので、みことばに漬かっているような感じで、聖書から深く教えられて、恵みをいただいたと思います。

約束した、先週の火曜日に、原稿を持ってO I Cに行って、英語をチェックして下さるようお願いしていました。それを目指していましたが、できる自信がありません。ただ、今回のメッセージの中心は、「イエス・キリストの真実によって、神の義が、信じる者すべてに現される」でしたから、自分の努力や、頑張りで、あわててやる必要はない。ただ、キリストは真実な方だから、必ず大丈夫なはずだと、キリストの真実に信頼することだけを考えて進めていました。月曜日の夜中に、「もうだめだ、約束の時間には間に合わない。」と思っていました。しかし、キリストは真実な方だから、キリストに信頼しようと思いました。すると、準備を続けるようにと導いてくださいました。そして、英語と日本語の原稿を印刷して、持って行きました。O I Cオフィスに着いたのが、約束の、火曜日午後1時の5分前でした。真実なキリストが間違いなく導いてくださいました。私にとっては奇跡でした。

キリストの真実に、信頼して、キリストとともに歩んでいく。これが聖書のメッセージです。

お祈りしましょう。

神様、あなたは、私たちがキリストの完全な真実に信頼して歩むようにと願っておられます。私たちのベストではなく、あなたの義が、私たちに、まわりの多くの方に現されていきますように。イエス・キリストによって、お祈りします。アーメン